

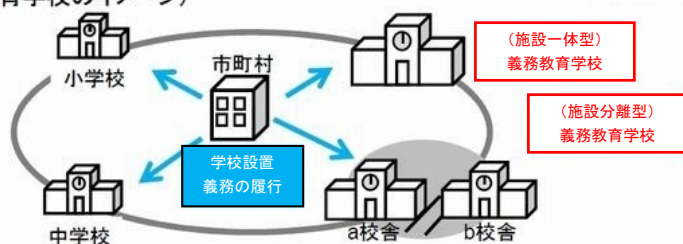
小中一貫教育について

【小中一貫教育とは】

小・中学校が目指す子ども像を共有し、義務教育期間である9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育のこと

小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う小中一貫校を「義務教育学校」の名称で制度化し、新たな学校の種類として規定。

(参考:義務教育学校のイメージ)

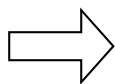


【小中一貫教育が求められる背景】

○小中学校での指導の違い

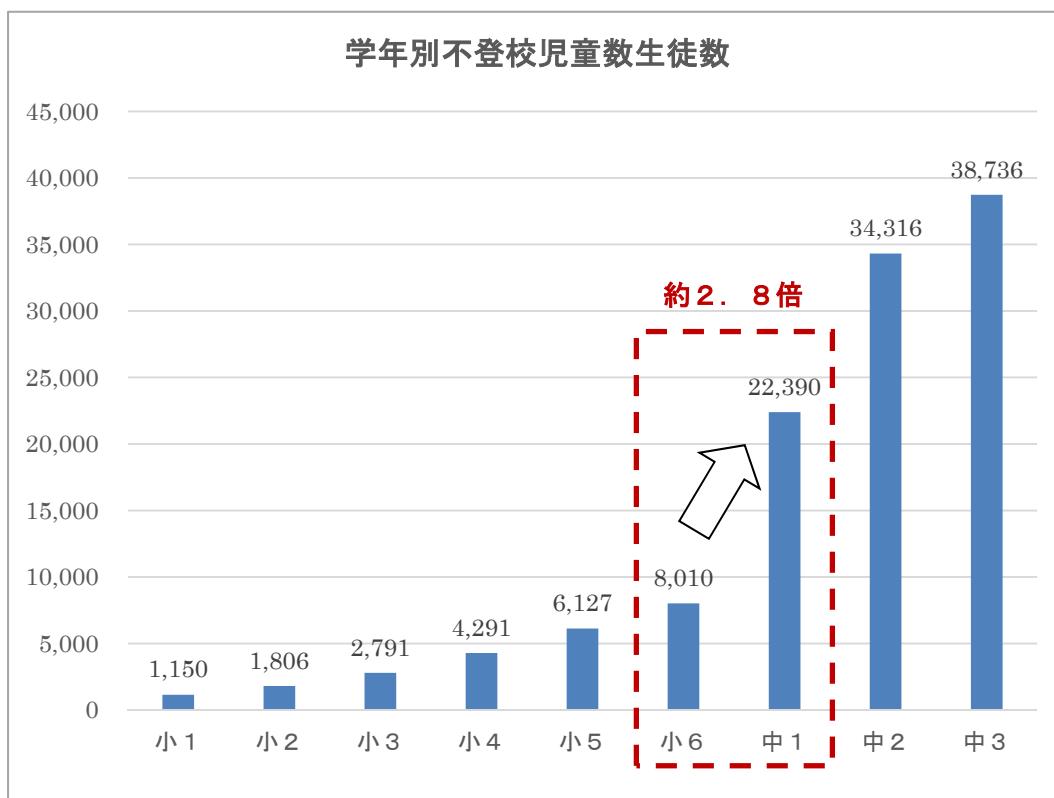
	小学校	中学校
授業形態	学級担任制	教科担任制
学習指導方法	丁寧にきめ細かく指導 グループ学習の重視	板書が多い スピードが速い 教え込み型が多い
評価方法	単元テストを踏まえつつ 関心・意欲・態度を重視	定期考査重視 知能技能重視
教師の関わり方	「支援」「声かけ」「お世話」 保護や養育の意識で 接する。	「指導」「自主性」「礼儀」 自主性や自立を促す 接し方になりやすい。

- 生徒指導方法（中学校では小学校と比較して規則が多く、厳しい生徒指導がなされる傾向がある。）
- 部活動の有無

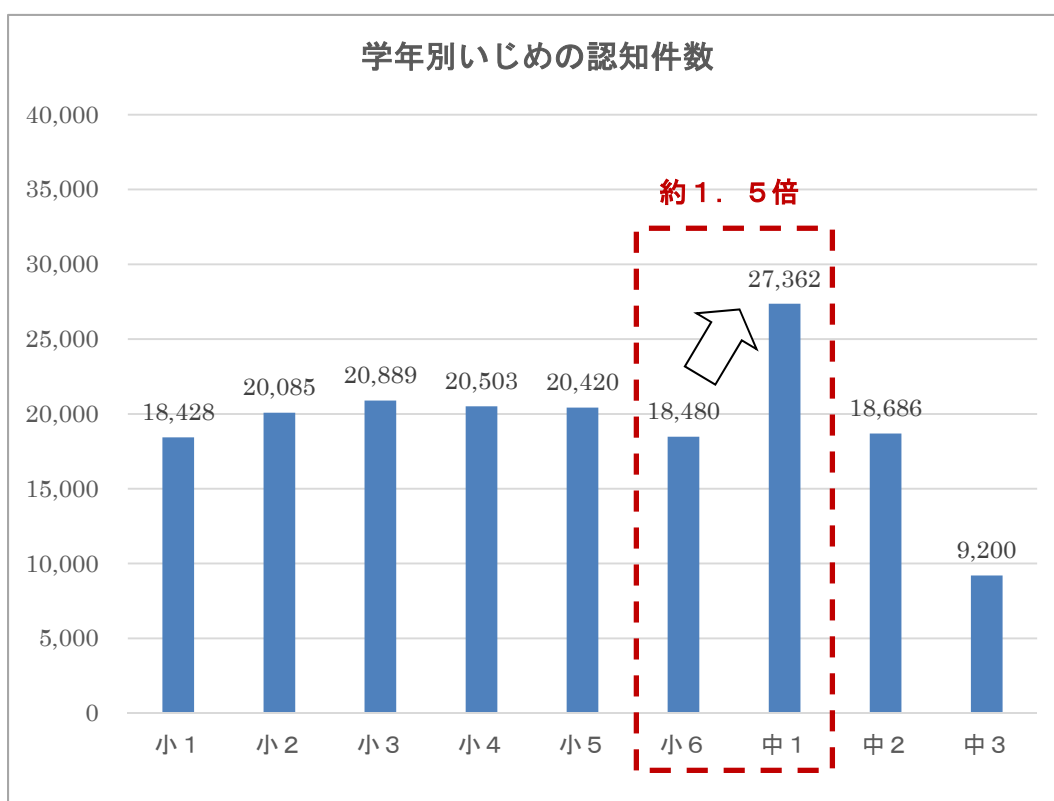


小学校から中学校に進学する際、学習や生活の変化になじめずに不登校となったり、いじめが増加する「中1ギャップ」の発生。

(資料1)



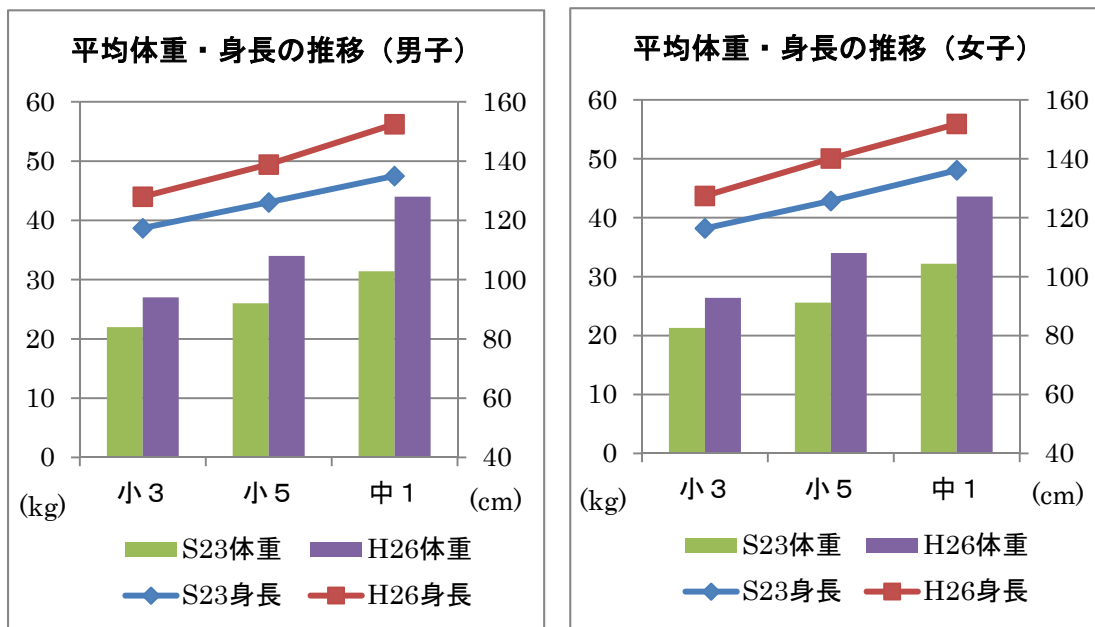
(資料2)



出典：平成25年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)

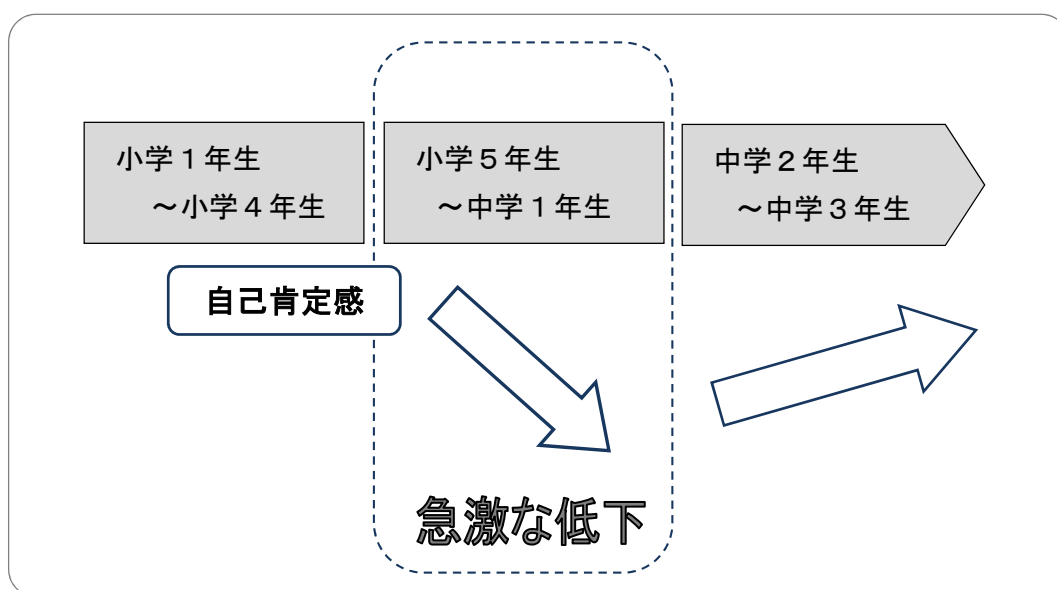
○児童生徒の身体的・精神的発達の変化

- ・ 6－3制が導入された昭和20年代前半と比較すると、身体的発達が2、3年早まっている傾向が見られる。



出典：昭和23年度及び平成26年度「学校保健統計調査」より

- ・ 小学校高学年頃から思春期に入り、自己肯定感が著しく低下していくといわれている。



◆小中連携教育

小中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

◆小中一貫教育

小中連携教育のうち、小中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

◆小中一貫教育等についての実態調査の結果

調査時点：平成26年5月1日

①実施件数 1,130件（小学校：2,284件、中学校1,140件）

②実施市町村 211市町村（全市町村の約12.3%）

